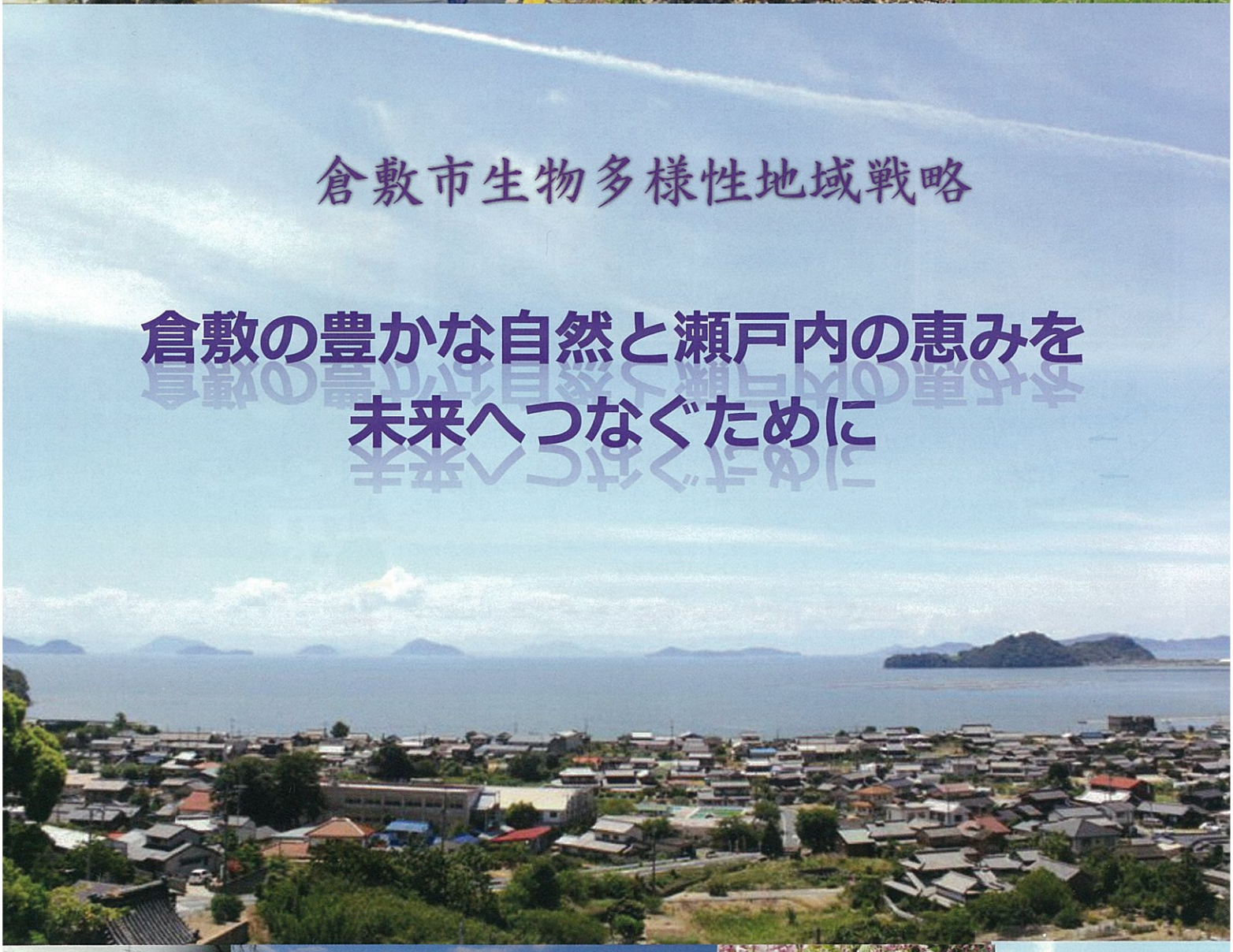
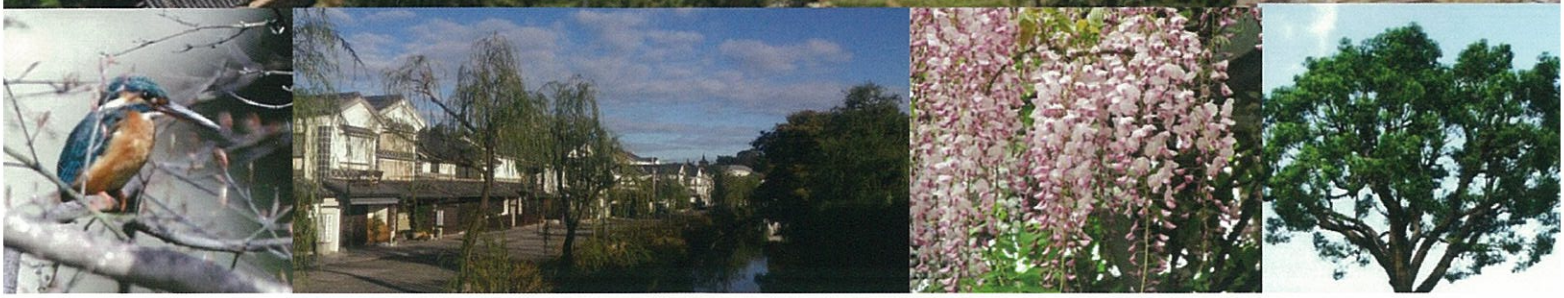
概要版

倉敷市生物多様性地域戦略

倉敷の豊かな自然と瀬戸内の恵みを未来へつなぐために





倉　敷　市

なぜ、生物多様性が必要なのか？

倉敷市生物多様性地域戦略を策定する必要性

私たちのまち倉敷は、それぞれの地区が有する特徴ある自然の恵みに支えられ、地区ごとに特色を持った歴史・文化を育み、その中で発展をとげてきたさまざまな産業が息づく均衡のとれた多機能融合型の都市です。

私たちに今、課せられているのは、地域が日本、さらには地球の生物多様性の一翼を担っているという認識のもとに、地域の生物多様性を可能な限り保全し、次の世代に引き継ぐことです。

しかし、倉敷市の自然が備えている生物多様性は損なわれつつあり、また生物多様性を回復・維持する取組みも不十分な状態にあります。

そのために、市内各地の生き物や生き物の織なす生態系を再確認し、その保全上の問題・課題を整理し、自然と共生し、生物多様性の恵みを次の世代に引き継ぐため、倉敷市が目指すイメージや方向性を全ての市民が共有し、取り組むべき基本計画として、「倉敷市生物多様性地域戦略」を定めます。

３つ生物多様性

生物多様性には、３つの側面があります。

生態系の多様性

玉島黒崎の南浦の海岸

児島由加のシイ林の奥山

玉島穂井田の里山

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、アマモ場など、いろいろなタイプの自然が存在すること。それぞれの自然環境のもとに、多様な生物が織りなす系（システム）が形成されています。倉敷市も瀬戸内海や高梁川、多くの用水路やため池、平野の周りには丘陵地と多様な生き物の棲み場が存在しています。

種の多様性

動植物から微生物まで、いろいろな生きものがいること。【写真：倉敷市立自然史博物館】

遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つことで、形や模様、生態など多様な個性があること。異なる遺伝子があることで、環境の急変や病気の蔓延による絶滅を免れる可能性が高くなります。

【写真：ナミテントウ】

生物多様性とは、さまざまな環境に適応して進化してきた約 3,000 万種ともいわれる生き物たちの豊かな「個性」と「つながり」のことです。

生物多様性の４つの恵み

私たちの暮らしは、食料や燃料、医薬品など多くの生物起源のものに支えられ、また、環境そのものが、生態系とその動きに支えられています。

基盤サービス

- 植物の光合成
- 窒素，リンなど栄養塩の循環
- 水の循環
- 生物の生息・生育環境

縁の下の力持ち

供給サービス

- 食料（作物、漁業）など
- バイオマス燃料
- 遺伝子資源
- 生薬、医薬品
- バイオミミクリー

生態系サービス
＝
多くの恵み

- バイオミミクリーとは、生き物の優れた機能を真似て製品などに取り入れることです。500 系新幹線の先端は、水に飛び込んでも大きな波紋を出さないカワセミのくちばしを参考につくられています。

文化的サービス

- 祭り・民謡
  （下津井節）
- 文化･芸術･デザインへのひらめき
  （絵画、文学、音楽）
- 食文化
  下津井タコ
  真備タケノコ
  鮒飯
  日本酒（備中杜氏）

調整サービス

- 自然災害、疫病の抑制
- 大気、水、廃棄物などの浄化

倉敷市の生物多様性の課題

1） 地域の環境基盤、土地利用・産業の課題

- 残された藻場、干潟、自然海岸の保全及び人工海岸の機能再生と海ごみ
- 公共事業に伴う生き物の生息場所の消滅・縮小や、生息環境の悪化の抑制と機能回復
- 里地・平野の市街地化と、圃場整備や用水路改修に伴う生態系ネットワークの分断
- 乾田化など農法の変化による生き物の生息環境の変化
- 農業従事者の高齢化や後継者不足、休耕田や耕作放棄地の増加、獣害の拡大や放棄竹林の拡大
- 大規模な事業場、企業などの産業活動に伴う高い環境負荷

	H12	H22
耕地面積	5,506ha ↘	4,603ha
耕作放棄地	429ha ↗	766ha

2） 特筆すべき生き物（希少野生生物や外来生物）や地域特性に係る問題・課題

- スイゲンゼニタナゴやカワバタモロコ、ナゴヤダルマガエルなど希少な生き物の密漁対策とみんなで見守る保護体制の確立
- ヌートリア、オオクチバス、ブルーギル、オオキンケイギクなど特定外来生物やアメリカザリガニ、スクミリンゴガイ、ミシシッピアカミミガメなど要注意外来生物による農業や生態系への被害の増加

外来生物

3） 自然との触れ合いや環境教育の課題

- ライフスタイルの変化による、自然の恵みを直接的に感じる機会の減少、昔から伝わる自然の恵みを生かす知恵の次世代への伝承
- 学校・保育所などにおける環境教育の支援体制の強化

4） その他

- 生物多様性保護・保全の基礎となる市内の情報の拡充に向けた基礎調査と継続的なモニタリング、保全のための対応策の検討・研究
- 地球温暖化に伴う気候変動と、それに伴う災害などによる生き物の生息・生育環境の喪失・悪化
- 生物多様性の保護、保全の主体となる地域、ＮＰＯ・ＮＧＯ、大学、事業所、国、岡山県などの連携
- 高梁川流域全域で成す「自然共生圏」の持続可能性の確保に向けた、流域自治体全体の官民の連携の推進と強化

４つの基本目標　倉敷の目指す将来像に向け４つの基本目標を定めています。

知る　**基本目標１**

倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

守る　**基本目標２**

身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全，回復，再生する。

使う　**基本目標３**

生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

つくる　**基本目標４**

倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

【目標期間と目標年次】

倉敷市環境基本計画，生物多様性国家戦略，岡山県版生物多様性地域戦略との整合

生物多様性の普及啓発の推進 ＋ 生物多様性の持続可能な利用の基盤づくり ➡ **短期目標年次：2020 年**

ライフスタイルやまちづくりの考え方の変革と継続的な取り組みを目指す期間 ➡ **長期目標年次：2050 年**

【短期目標】

- 生物多様性の損失を食い止め、持続的利用ができるようになっており、より豊かにする取り組みを始めている。
- 生物多様性保全に係る総合的・計画的な施策体系が確立されている。
- 市域の生態系を構成する森・山、河川・水辺、海域・海辺・海岸などの自然生態系、里地・里山、農用地、ため池などの人と自然のふれあいに係る生態系、および市街地の都市公園・緑地等の生態系が保持されるようになっている。
- 地域の希少な生物種・生態系が保全され、その生息・存続を確かにする状態となっている。
- 生物多様性に係る調査・研究により、必要な情報が整備されて広く共有されるとともに、生物多様性に係る地域評価手法を確立している。
- 生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する自身の考え方、すなわち「環境観」が、現状よりも多くの市民に理解される地域となっている。

【長期目標】

- 地域の生物多様性が現状よりも豊かになっている。
- すべての主体が参加・行動し、地域の生物多様性の保全が確保・推進されている。
- 生物多様性保全に係る望ましい環境像と社会の関係に関する環境観が市民に広く共有されている。

倉敷の目指す将来像

「恵み豊かな瀬戸内の自然を、未来に向けて みんなの手で引き継いでいるまち倉敷」

■森、山の将来像

由加山など自然林は保護され、落ち葉の陰には**カスミサンショウウオ**が潜み、初夏には**ヒメボタル**が乱舞する。毎年早春には営巣のため**オオタカ**が飛来し、夏には、**オオルリ**や**キビタキ**の美しい声が響く。雑木林や**マツ林**は、間伐など手入れが進み、春の明るい林内には**コバノミツバツツジ**や**シュンラン**の可憐な花が咲く。**アベマキ**や**コナラ**、**アキニレ**の樹液には、**オオムラサキ**や**カブトムシ**、**ノコギリクワガタ**が集まり、秋には見事な紅葉がみられるなど季節ごとに地域の風景を彩っている。

イノシシなど野生動物は、食害対策が取られ、個体数管理が行われ、人とのすみわけができている。間伐材は資源として活用され、一部では、バイオマスボイラーなどを使ったエネルギーの地産地消も行われている。

市民団体と行政の協働する行事や事業者によるＣＳＲ活動として、森林ハイキングや野鳥観察、秋にはキノコ狩りなどの他、間伐体験などが開催されており、そこには多くの市民が参加し、自然とそこからもたらされる恵みを楽しんでいる。

カスミサンショウウオ

アカマツとコバノミツバツツジ

ノコギリクワガタ

■河川・水辺の将来像

高梁川では、海から上流部までの生き物が移動できるように連続性が改善され、様々な魚や水生生物が遡上し、**アユ**や**モクズガニ**の漁が盛んにおこなわれ、釣り人や水遊びをする子どもたちでにぎわう。**オオクチバス**など外来生物や**カワウ**など害獣の排除が進み、美しい水辺と自然環境が保たれ、**オギ**の広がる河原には、**ミゾソバ**の群落も見られる。草むらの中には**オンブバッタ**が飛び跳ね、秋には**マツムシ**が鳴くなど多くの生き物に満ち溢れ、潮止堰の上空では**ミサゴ**が舞っている。

柳井原貯水池に付替えられた小田川など新たに整備された護岸、河道や東西用水は生態系への配慮がなされ、流れの緩やかなところは、**イシガイ**や**トンガリササノハガイ**やその貝達に産卵する**タナゴ類**など希少な淡水魚の宝庫となっており、自然保護と治水、利水が両立している。

由加や尾原（児島地区）、富田（玉島地区）、真備など里地の用水路や小河川では、初夏に**ゲンジボタル**や**ヘイケボタル**が乱舞する。

溜川では、**カワセミ**が**ヌマムツ**を狙い、**オオヨシキリ**が鳴く**ヨシ原**のそばの湿地からは**ナゴヤダルマガエル**の鳴き声が聞こえてくる。

ミ サ ゴ

オギの群落

スイゲンゼニタナゴ

■里地、平野部の将来像

用水路と連続性が確保された農地では、農薬を控えるなど環境配慮型の農業が盛んに行われ、多くの里の生き物にとって良好な生息・生育地が広がる。そこでは、**ナゴヤダルマガエル**や**アカハライモリ**、**カワバタモロコ**など絶滅が危惧される生き物と人々が共生できるよう生き物に配慮した農法が行われており、**ヘビ**や**カエル**など田畑の周りの生き物を狙って、周辺の大きな**アカマツ**には、**サシバ**や**コウノトリ**が営巣している。それら圃場で収穫される農作物は、生き物ブランド化され、収益の一部は地域の環境保全に活かされている。

夏、子どもたちは、**フナ**、**メダカ**や**ドジョウ**などの魚採りや、**トンボ**や**バッタ**などの虫採りなど生き物たちとたわむれている。秋には、飛び回る**アキアカネ**や**マユタテアカネ**など赤とんぼの仲間を追いかける。

自然観察会や農業体験などが行われるなど、市街地から多くの市民が訪れ、環境学習に取り組み生物多様性保全への理解を深めている。

カワバタモロコ

コウノトリ

ナゴヤダルマガエル

■湿地、ため池の将来像

湿地は健全な状態で保護され、**サギソウ**や**トキソウ**など美しく希少な草花が咲き、真っ赤な**ハッチョウトンボ**が盛んに縄張り争いをしている。多くの市民が自然観察だけでなく、脆弱な湿地の環境をまもるため活動している。

ため池は、適切な管理により外来生物が排除されており、秋には池干しが行われ、大人も子どもも**フナ**や**スジエビ**採りを楽しむ。改修により防災や利水の機能が強化されているだけでなく、自然環境にも配慮され、**オニバス**や**ガガブタ**が咲き、**ウチワヤンマ**や**シオカラトンボ**、**チョウトンボ**が飛び回り、水中では**タガメ**が**メダカ**を狙っている。池のほとりでは**在来カメ**が甲羅干しをしており、早春には、林内から産卵のため**カスミサンショウウオ**が訪れる。

ハッチョウトンボ

サギソウ

オニバス

■海辺・海岸の将来像

市内に残る自然海岸は、保全され、沙美海岸や唐琴海岸の渚で人々は憩い、早春の久須美鼻（児島地区）の岩礁では**ワカメ**や**ヒジキ**採りが行われている。港湾にも環境配慮型の護岸や堤防が設置され、カ二護岸の隙間からは**イソガニ**が覗いている。

高梁川河口干潟や玉島ハーバーアイランドの人工干潟では、**ハクセンシオマネキ**が盛んに扇を振り、**チゴガニ**や**コメツキガニ**がダンスを踊る。人々は、**アサリ**や**マテガイ**などの潮干狩りや**アナジャコ**とりを楽しむ。春と秋には多くの**シギ・チドリ**が羽を休め、冬には数千羽の**カモ類**など水鳥が漂っている。

味野湾や通生の浜の地先には、かつてより面積の広がった**アマモ場**がひろがる。**アマモ**には、**カミナリイカ（モンゴウイカ）**の卵が産み付けられ、**メバル**や**クロダイ**、**マダイ**など多くの稚魚を育む海のゆりかごとなり、豊穣の海を支えている。

アナジャコ

ハクセンシオマネキ

アマモ

■市街地の将来像

市街地内では、住宅の庭先には気候風土に調和し、小鳥や蝶の餌となる樹木や草花が植えられるなど緑化が進み、緑豊かな市街地景観が形作られている。街中の石垣には、シダの仲間の**イノモトソウ**が根を下ろし、**ニホントカゲ**が覗いている。

事業所や大型商業施設、学校や公共施設は、屋上緑化なども進み、かつて、伝統的建築物が建ち並ぶ町並みの屋根瓦で数多く見られた**ツメレンゲ**は、各所の石垣、屋根上にも根付き、また屋上緑化植物として一部で保護・活用されて、周りを**クロツバメシジミ**が飛び回っている。建物の周囲や中庭には、鳥や昆虫が集まるまとまった緑が確保されており、希少種の保護地となるビオトープが整備された施設もある。

公園には多様な植物が植えられ、生態系としてバランスが取れており、在来の生き物に配慮した植物種や管理を行うコーナーも設けている。子どもたちは、草むらや樹木に集まる **ナミアゲハ**や**トノサマバッタ**や**トンボ**など生き物を探したり捕まえたりしている。

学校などの教育施設や公園の緑地やビオトープなどは、環境学習の場として利用されるほか、宅地や事業所、街路などを含め、市街地の緑は地域の樹種による植栽がなされ、生物多様性の保全に寄与するエコロジカルネットワーク（生き物たちが移動する道）の一部を担っている。

クロツバメシジミ

ツメレンゲ

トノサマバッタ

※赤色で名前が示されている生き物は、絶滅の恐れがある生き物として、**環境省のレッドリスト**または、**岡山県版レッドデータブック**に記載されている生き物たちです。

行動計画　４つの基本目標達成に向けた取り組み

基本目標１　倉敷の生態系の状況と生き物と暮らしとのつながりを把握する。

- 生物多様性調査の実施
- 自然環境に係る情報の整備・充実

中国四国地方唯一の市立自然史博物館である「倉敷市立自然史博物館」を核に、関係者、市民に生物多様性に関する情報を広く提供し、生物多様性の保全，回復，再生に役立てる。

倉敷市立自然史博物館の展示

倉敷みらい公園の生き物しらべ

基本目標２　身近な自然とそのつながり及び希少野生生物の生息・生育環境を保全，回復，再生する。

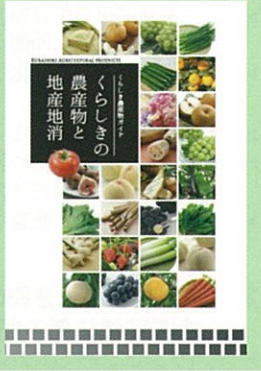
- 総合的・計画的な保全体系の拡充
- 地域の自然と生態系ネットワークの保全
- 地域ごとの自然環境の保全
- 重要地区の保全
- 希少野生生物の生息・生育環境の保全
- 外来生物対策

カワバタモロコの生態に配慮して、３方コンクリート用水路に土水路を組み合わせた農業用水路改修事例
カワバタモロコは、岡山県希少野生動植物保護条例の指定種

基本目標３　生物多様性の恩恵を持続的に受けられるように自然資源を利用する。

- 環境配慮型農業と地産地消の推進
- 生物多様性に配慮した地域開発と産業、事業活動の促進

（左）おかやま有機無農薬農産物ブランドマーク
（中）児島地区伝統野菜「衣川なす」
（右）くらしき地産地消ガイド



基本目標４　倉敷の生物多様性の保全と持続的な利用に向けて、行動できる人づくり、地域づくりを行う。

- 市民への環境学習機会の提供
- 支援者、指導者の育成
- 子どもたちへの環境教育の充実
- 社会貢献活動や自然共生圏を意識した地域交流経済活動の支援
- エコツーリズム等の推進
- 自然とのふれあいの促進

倉敷市環境学習センター主催の
環境体験学習エコサマースクール

倉敷市立自然史博物館の標本を
貸し出す「倉敷まちかど博物館」

生物多様性を守るために、私たちができること

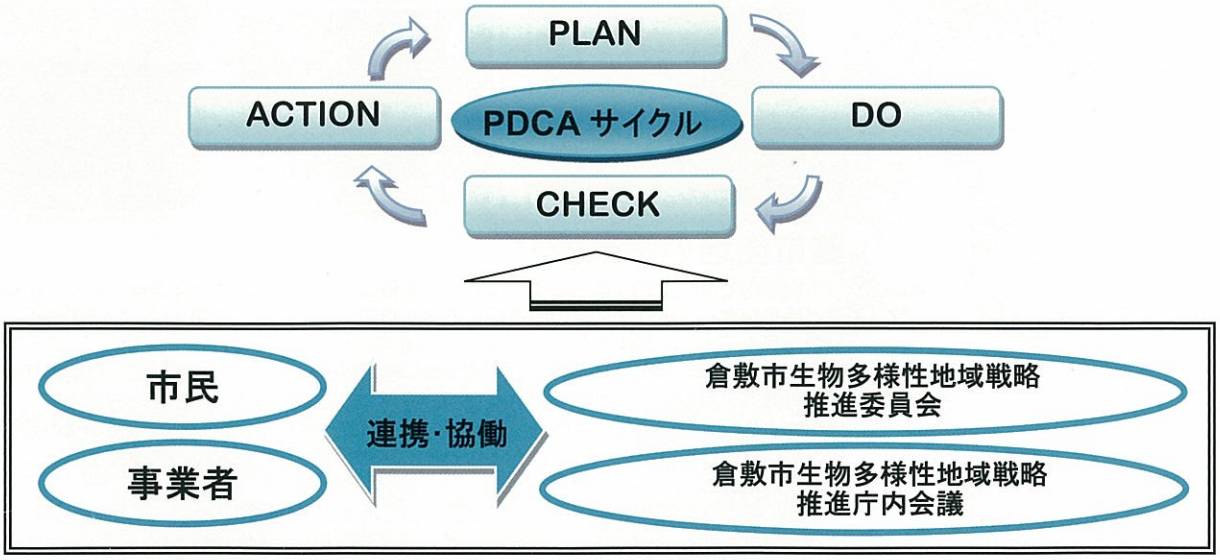
- 家の周りの野生生物を調べ、定期的に観察し、増減等を調査してみましょう。
- 購入した動植物は、責任を持って最後まで飼育・栽培し、野外に放したり放置するのはやめましょう。
- 空き地などの遊休地の緑化に取り組みましょう。
- 絶滅の危機に瀕している野生生物について学び、地域で乱獲や生息環境の破壊を許さない体制を整えましょう。
- 外来生物の被害や対策について学び、駆除などに協力しましょう。
- 食材などを購入する際は、地元で採れたものを購入するなど、地産池消を心掛けましょう。
- 環境ラベルについての知識を高め、環境に配慮した消費活動を心がけましょう。
- 私たちの日常生活と環境との関わりについて考えてみましょう。
- 環境に配慮した生活を行うために、自分たちに出来ることを見つけて、実践して行きましょう。
- 家庭で生物多様性について話し合う機会を持ちましょう。
- 里山などの身近な自然を守る活動に参加・協力しましょう。
- 体験型ツーリズムに参加しましょう。
- 休日は、山や川、海辺などに出かけ、自然に親しむようにしましょう。
- 野生生物をむやみに傷つけたり、持ち帰るのはやめましょう。

戦略の推進体制・進行管理

- 各主体間の連携による協働の取り組みが必要です。

⇒　市民、事業者、市民団体、学識経験者など（推進組織の各主体）からなる「倉敷市生物多様性地域戦略推進委員会」を設置します。

- 「PDCA サイクル」で、取り組みの進捗状況を把握、業務の継続的な改善を図ります。



倉敷市生物多様性地域戦略
～倉敷の豊かな自然と瀬戸内の恵みを未来へつなぐために～
策 定 年 月　　平成２６年３月
編集・発行　　倉敷市 環境リサイクル局 環境政策部 環境政策課
〒710-8565　倉敷市西中新田６４０
TEL：086-426-3391　FAX：086-426-6050

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

写真提供　青野孝昭　伊藤邦夫　狩山俊悟　笹田富夫　洲脇清　田賀辰也　倉敷市立自然史博物館
イラスト　樋口真里子

やめよう不法投棄、させない不法投棄。生き物たちの嘆きが聞こえませんか?